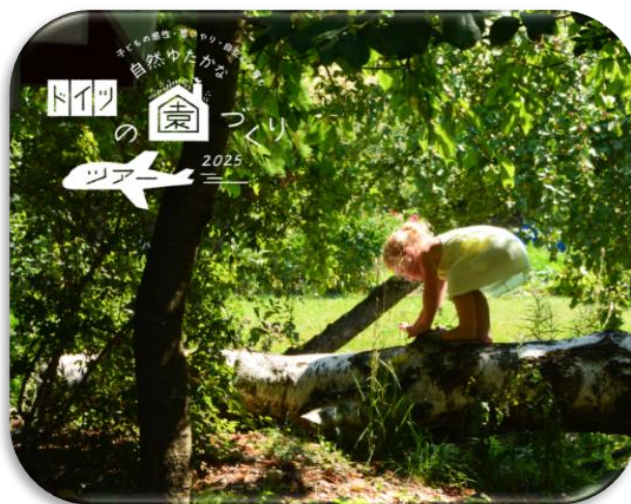


子どもの感性・思いやり・自立心を育む

自然ゆたかなドイツの園づくりツアー2025

実施レポート



子どもたちの心とからだの成長は、五感を通じて自然とふれあい、自然の美しさや不思議さを他者と共有することで促されます。このことから、幼児施設での日常的な自然体験は、保育・幼児教育における大切な要素と言えます。『自然ゆたかな園庭がある園』は、乳幼児期の子どもたちが、日々、安心して自然とふれあい、豊かな感性や思いやり、協調性、想像力などを育む場所として、最適な環境です。

本ツアーでは、ハンブルクの複数の保育所・幼稚園や、環境センターなどを見学し、ドイツにおける乳幼児期の自然とのふれあいの取り組み動向について学びました。これはその実施レポートです。

期 間 2025年6月1日(日)～7日(土)

視察地 ドイツ ミュンヘン

参加者 18名

視察企画・協力



公益財団法人

日本生態系協会

目次

視察日程・位置	2
ドイツ・バイエルン州における保育・幼児教育など	3
子どもを守るための制度	3
共生社会に向けた保育・幼児教育	3
持続可能な開発のための教育に向けた世界の潮流	3
ドイツ政府の園庭の生物多様性を高めるプロジェクト	4
バイエルン州政府の取り組み	5
視察先概略	
ノッチング公立幼稚園	7
自然幼稚園ボーゲンハウゼン	10
バイエルン州立幼年期教育研究所	12
クラインガルテン協会NW18	14
自然の子 聖ゲオルグ保育所・幼稚園	16
森の幼稚園ヴァルディンゼル	18
聖クイリヌス保育所・幼稚園	20
ミュンヘン空港会社	22
旅日記	24

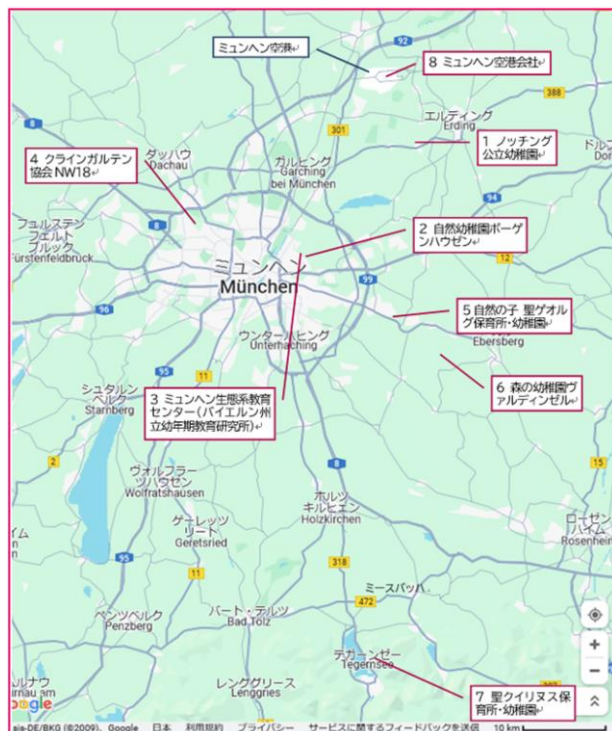
視察日程・位置

視察日程

月日	時間	スケジュール
6/2(月)	09:30-11:45 12:30-14:30	1 ノッティング公立幼稚園を見学 2 自然幼稚園ボーゲンハウゼンを見学
6/3(火)	09:00-12:00 14:00-16:00	3 バイエルン州立幼年期教育研究所の講義(ミュンヘン生態系教育センター内) 4 クラインガルテン NW18 を見学
6/4(水)	08:30-10:45 11:15-13:15	5 自然の子 聖ゲオルグ保育所・幼稚園を見学 6 森の幼稚園ヴァルディンゼルを見学
6/5(木)	08:30-11:00 14:00-17:00	7 聖クイリヌス保育所・幼稚園を見学 8 ミュンヘン空港及び周辺自然再生地などを見学



視察地のおおその位置



ドイツ・バイエルン州における保育・幼児教育など

子どもを守るための制度

ドイツでは、1歳になった子どもは何らかの施設で保育を受けることが法的に保障されてます。通常は1歳を過ぎてから、早い子では8カ月くらいから保育所に入園します。どうしても預かってくれる保育所が見つからない場合、保護者は自治体などに対して訴訟を起こすことも可能です。

保育の制度が充実する一方、SNSなどの利用が拡大するなか、子どもの肖像権の侵害の拡大などの問題が深刻化しています。こうした事態から子どもを守るため、ドイツでは、個人的な子どもの写真を保護者の許可無く撮影し、SNSなどで発信することが禁止されています。子どもの写真を撮影する際にも、保護者一人一人の承認・署名が必要になることもあります。

共生社会に向けた保育・幼児教育

自然ゆたかな園づくりだけでなく、共生社会の形成に向けた取り組みも進んでいます。『インクルーシブ(またはインテグレーション)保育・教育』は、障がいの有無や年齢・性別・人種・言語・文化・宗教的背景の違いにかかわらず、一緒に遊ばせながら、子ども一人一人の保育や教育的ニーズにあった支援を行うというものです。3～6歳の異なる年齢だけでなく、園によっては1～2歳の乳幼児も年長の子どもと同じグループで遊ばせているところもあります。

また、園の運営や園庭管理、行事の企画実施などを保護者と連携して行うための取り組みも進んでいます。インクルーシブ保育・教育は、子どもたちの他者への理解を深め、思いやりの心や助け合いの精神を養うのに役立ち、保護者との連携は信頼や協力を得るのに役立っています。

持続可能な開発のための教育に向けた世界の潮流

1992 年にリオで行われた地球サミット以来、「持続可能な開発」は世界の環境政策の指針となっています。2002 年の国連ヨハネスブルグ・サミットにおいて、日本政府と NGO の共同提案により、「国連持続可能な開発のための教育(ESD※ドイツ語では BNE)の 10 年」が採択されました。これを受けて 2005 年「ESD の 10 年国際実施計画」(2005～2014 年)が策定され、世界各国にその推進が呼びかけられました。その後、国連はこの「ESDの 10 年」を土台に、「ESD に関するユネスコ世界行動計画」を策定しました。

2019 年、2020～2030 年における ESD の国際的な実施枠組である「ESD: 持続可能な開発目標(SDGs)実現に向けて(ESD for 2030)」がユネスコ総会で採択され、同年 12 月の第 74 回国連総会で承認されました。これは、ESD の強化と SDGs の 17 項目全ての実現に取り組むことを通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指すものとなっています。

ドイツ政府の園庭の生物多様性を高めるプロジェクト

日本と同様、生物多様性条約に批准しているドイツでは、その約束を果たすために『生物多様性国家戦略』を策定し、それに基づいて、都市や農地における生物多様性の保全回復プロジェクトなど、多岐にわたる取り組みを実行しています。地域在来の植物を園庭で育てるなど、身近な生きものたちとの日常的なふれあいを促す園づくりも、政府の様々な取り組みにより奨励されています。

ドイツ連邦環境・自然保護・原子炉安全省が全国規模で進めてきたプロジェクト『保育所・幼稚園の子どものための庭 ～一緒に多様性を発見しよう～(ドイツ語 Kinder-Garten im Kindergarten – Gemeinsam Vielfalt entdecken)』は、絶滅の危機にある多様な野生生物に対する保護の意識を幼少期から育てることをねらいとしており、国内多くの園が参加しています。また、自然を観察したり、調べたりすることを通して、子どもの探究心の発達や自然についての理解や知識の向上などを促すプロジェクト『小さな研究者(Kleine Forscher)』に取り組む園も多くあります。

生物多様性の豊かな園庭などについての情報交換や交流のために約 200 の園が参加する全国ネットワークが設置されるとともに、プロジェクト参加園に参考情報を提供する目的で、現在までに3種類の冊子が発行されています。2015年7月に、第1弾の『保育所・幼稚園の子どものための庭 ～一緒に多様性を発見しよう！～自然ゆたかな園庭は生物多様性を高める～』が発行され、翌16年4月には、同『～生物多様性豊かな遊び体験～』が、10 月には、同『～生物多様性 種からお皿まで～』が発行されました。



バイエルン州政府の取り組み

バイエルン州政府は、生物多様性の保全にとっても積極的で、2019 年にバイエルン野の花協定という制度を立ち上げました。これは州環境・消費者保護省が、企業や自治体、個人と協定を結び、ハチ類などの昆虫や野鳥、小動物などを守るために、その生息地となる地域在来の野の花が咲くビオトープづくりを促進するものです。素晴らしい取り組みを実行する協定締結企業には野の花咲く事業所賞を授与しています。また、多くの市や町も協定を結び「野の花咲く自治体」としてまち中でのビオトープづくり、ネットワークづくりを進めています。



「バイエルン州幼児教育・保育施設の未就学児童のための教育・保育計画(Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung)」の 7.7 章「環境」の項でも、「子どもたちが自然とふれあえるようにする」「ESDの基本要素としての環境教育を実践する」「未来志向の行動を促すために環境保護と環境の変化について教える」「生態系、経済、社会の問題が相互に関わっていることを認識させる」「アジェンダ 21の下に ESD を実施する」などのことを、州政府の義務とする記述があります。こうした背景から、バイエルン州では、私立の園だけでなく、公立の施設においても園庭ビオトープづくりに取り組む例が多くあります。

特に「子どもたちが自然とふれあうようにする」ために、五感を使って自然を感じることが大切だとしています。自然の中でよく見て観察し、考え、実際にふれることで身の回りの世界とのつながりを感じ取り、自然を大切にしたいという気持ちや、思いやり、責任感が育ちます。こうした体験を経て、ESD の考え方を身につけていくことが目標となっています。

また、バイエルン州立ワイン・庭づくり研究所では、生物多様性の保全に貢献している庭などに対して「花咲くバイエルン ナトゥアガーデン(自然の庭の意)認証」を設け、基準に沿った庭づくりを行う個人庭やクラインガルテンを認定し、認証の印であるナトゥアガーデン・プレート^①の設置を許可しています。





バイエルン州は、政府だけでなく市民の自然保護への関心も高く、2019 年に行われた、「ハチを救え！ 種の多様性保護住民投票」のための署名キャンペーンでは、自然保護のための法改正を求めて、有権者の 2 割以上に及ぶ 174 万人の人々が署名を行いました。その結果、その要請どおりに自然保護法が改正されました。これを先導したのは、バイエルン州鳥類自然保護協会(LBV)という州内で最も歴史ある自然保護団体です。LBV は自然環境教育にも力を入れており、環境・消費者保護省、労働・社会・家庭・統合省と連携し ESD に積極的に取り組む幼児教育施設を認定し表彰するエコキッズ(ÖkoKids)の取り組みを実施しています。

視察先概略

1 ノッチング公立幼稚園 Kindergarten Notzing

運営団体 オーバーディングの自治体 Gemeinde Oberding

ご担当者 園長 シモーネ・タルハマー氏 Simone Thalhammer

URL <https://www.kiga-notzing.de>

視察日 2025 年 6 月 2 日 9:30~11:45



最初に訪問したノッチング公立幼稚園はミュンヘン近郊のオーバーディングという自治体が運営している公立の幼稚園です。現在、3歳から6歳までの子どもたち55名が通っています。当日は、園長のタルハマー氏に加え、オーバーディング市長のベルンハルト・ミュッケ氏 (Bernhard Mücke) にもお越し頂き



お話を伺いました。

バイエルン州では、保護者、子ども、保育者がお互いに密なコミュニケーションが取れるようにすることを大切にしています。これは、園の設置においても感じられます。この園は、極力自然に近い形の園庭があるという地域の要望のもと、保護者が自発的に作ったグループと自治体が話し合い、予算が組まれ、設置に至りました。このときの園庭の設計は、ビオトープについて専門的な知識を有する景観設計士が携わりました。

1520m²の広さの園庭には、現在、低木 5000 本を含む、200 種類の植物が生えています。垣根を作るような種類、300 本。花の咲く草木類は 55 種類、毎年植え替える必要のあるもの 15 種類と需要に応じて変化させているそうです。

この園庭は、自分自身で動くことを通して運動能力を高めることを主眼としています。子どもたちが持っているエネルギーをどのように発散するか、そのために筋肉をどのように動かすといいのか遊びを通して、子ども自身が自覚できるようにしています。それにより持久力、体力が付き、同時に危険を察知する能力、バランスを取る感覚なども養われます。



起伏のある場所には、滑り台や木登り用の木が設けられました。ボルダリングができるような感じに仕上げた自然の石の壁もあります。ちょっと小高い丘では、雪が降るとそり遊びができ、子どもにすごく好まれているそうです。

子どもたちは園庭の様々な要素を使ったおままごとや様々なごっこ遊びを好みます。自然に生まれた遊びを繰り返していくことで、子どもたちは自



分自身の感情をコントロールできるようになり、自信が生まれていきます。また自分にできること、できないこと、やってはいけないことなどが自覚できるようになります。他者との遊びの中で社会的な行動と、自分の言動の帰結が見えるようになります。その先に、芸術家的な要素、創造的な能力が生まれてきます。



園長のタルハマー氏が説明の中で示してくださった園庭のエリアと環境により子どもたちの能力への効果の図表

ノッチング幼稚園

教育や学習の場としての園庭の各エリア

Unser Garten als pädagogisches Lernfeld

Bereiche im Garten	Kompetenzerweiterung		
- Sand- und Matschbereich - Rutsche - Kletterbäume - Natursteinkletterwand - Hügelbereich (mit Schlittenberg) - Kriechtunnel - Hängebrücke - Vogelnestschaukel - Holzperle - Weidentunnel und -Tippi - Terrassenfläche	- Grob- und Feinmotorik - Kraftdosierung und Muskelaufbau - Ausdauer und Kondition - Gefahreinschätzung - Gleichgewicht, Balance - Körperwahrnehmung - Sozialverhalten und Selbstkompetenz durch Regeln und Rollenspiele & Emotionale Reife - Selbstwertgefühl und Einschätzung der eigenen Fähigkeiten - Kreativität und Fantasie	- Blumenwiese - Insektenhotel und Vogelhäuschen - Steingarten mit Wasserzone (bei Regen) - Obst- und Nussbäume - Naschgarten - Wildsträucher, Dornengewächse (Rosen und Hagebutten) und Hochbeet	- Naturerfahrung - Mathematische und Naturwissenschaftliche Bildung - Lernen durch Versuch und Irrtum - Kognitive Wahrnehmung - Lernen am Modell - Sinneswahrnehmung - Lebenspraktische Erfahrungen - Entwicklungsprozesse in der Natur beobachten, sie in das eigene Verhalten und Lebenswelt miteinbeziehen und wertschätzen

Google 翻訳

園庭内の各エリア	能力の拡大としての効果
・砂泥エリア ・スライド ・木登り ・天然石クライミングウォール ・丘陵エリア(そり滑り場あり) ・クロールトンネル ・吊り橋 ・鳥の巣ブランコ ・木馬 ・柳のトンネルとティピ ・テラスエリア ・花の草原 ・昆虫ホテルと鳥の家 ・水場のあるロックガーデン ・果物とナッツの木 ・スナックガーデン ・野生の低木、棘のある植物 (バラやローズヒップ)高床式の花壇	・粗大運動能力・微細運動能力 ・筋力の投与量と筋肉増強 ・持久力とフィットネス ・危険性評価 ・バランス ・身体認識 ・ルールやロールプレイングを通じた社会的行動と自己能力、そして感情的な成熟 ・自尊心と自分の能力の評価 ・創造性と想像力 ・自然体験 ・数字および科学教育 ・試行錯誤を通じて学ぶ ・認識的知覚 ・モデルから学ぶ ・感覚的知覚 ・実践的な人生体験 ・自然界における開発プロセス 自分の行動や生活の中でそれらを観察し取り入れ、大切にしましょう



2 自然幼稚園ボーゲンハウゼン Naturkindergarten Bogenhausen

運営団体 自然幼稚園ボーゲンハウゼン協会 Naturkindergarten Bogenhausen e.V.

ご担当者 園長 ニーナ・プロツシュ氏 Nina Prosch

URL <https://www.nakibo.de/>

視察日 2025 年 6 月 2 日 12:30~14:30



住宅地に隣接するボーゲンハウゼンの森の小道を歩いていくと、ゆたかな緑の中に、ひときわ目を引くかわいらしい黄色のトレーラーが見えてきます。ここが自然幼稚園ボーゲンハウゼンです。この園はミュンヘン市から許可を得てこの周辺の自然全体を幼稚園として利用しています。2001年、数名の保護者の間で保護者イニシアティブによる自然幼稚園をつくろうというアイデアが生まれ、2002年に協会が設立され、2003年9月1日、自然幼稚園が開園しました。現在、園児数は合計24名、3歳までの小さい年齢のグループは8名、大きい年齢のグループは16名です。それぞれ定員の上限が決まっており、大きいグループに進級したくても定員のため、他の園に行くこともあるそうです。



視察時は、森の中で輪になって、園長先生のお話を伺いました。自然の中での遊びを通じて、新しい状況に順応する力が育まれます。子どもたちは、天気や森の中の様子に常に注意を払い、それに応じて遊びも変化させます。誰か今遊んでいた場所で、次には違った遊びが始まり、新たな発見が生まれます。

また、自然環境は多くの学びの場となります。例えば、様々な地形の上を歩いてバランスを取ったり、木に登ったりすることで、身体の使い方が自然に身につけていきます。「自ら学ぼうとする気持ちを育む」が、この自然ゆたかな園庭の大きな魅力です。



トレーラーハウスの中には、製作したばかりの工作や、絵本がありました。



暖かい食事がケータリングで届きます。各々のランチケースにカトラリーを整えると、手を洗って、配膳へ…子どもたちは自発的に行動していきます。



子どもたちの遊ぶ傍らにハチがいることは、ごく普通の環境です。園庭の見学中、リスが参加者のすぐ脇を横切り生態系の営みを肌で感じられる空間でした。



生きものに配慮した工夫や、自然のものを活かした遊具が随所に見られま

3 バイエルン州立幼年期教育研究所 Staatsinstitut für Frühpädagogik (IFP)

ご担当者 幼児教育専門家 クラウディア・グースマン氏 Claudia Goesmann

講師 ジェシカ・ベッカー・ナカオ氏 Jessica Becker-Nakao

ミュンヘン生態系教育センター (Ökologisches Bildungszentrum München)

所長 マーク・ハウグ氏 Marc Haug

URL <https://www.ifp.bayern.de/> <http://www.oebz.de/>

視察日 2025 年 6 月 3 日 9:00~12:00

ミュンヘン生態系教育センターにおいて、バイエルン州幼年期教育研究所のジェシカ・ベッカー・ナカオ氏 (Jessica Becker-Nakao) にバイエルン州の持続可能な開発のための教育について、日本の教育の現状やドイツとの共通点を交えて講義していただきました。



発表内容



1) 持続可能な開発のための17の目標 (SDGs)
2) バイエルン州の教育の基本的考え方
3) 幼児教育のためのガイドライン
4) 自然や環境教育のプロジェクト
5) 未来に生きる力や、大切な価値観

Bild: Ena, 12 Jahre
© 2025 ifp

INNER DEVELOPMENT GOALS IDGの姿勢 (しせい) と価値観



IDGは、持続可能な発展のために必要な個人と社会の能力を育成 (いぐせい) するためのコンセプトです

質問
IDGの考え方は、日本社会でどのくらい実践 (じっせん) されているのでしょうか?

内面的な成長を促すための目標

(Inner Development Goals)

持続可能な社会の実現に向けて、人々の内面的な成長を促すための枠組み

- ①自分を知る。 私は誰か、私が正直に自分の意見を言えるようにすること
- ②考える。 難しいことをよく考えて、いろいろな角度から問題を解決しようとする
- ③つながりを大切にする。 様々な考え方や文化があることを意識すること
- ④協働する。 コミュニケーションをスキルアップして他の人と協力し合うこと
- ⑤行動する。 勇気を持って前に進むこと

世界中の科学者や企業教育機関が協力して推進している IDG の取り組みについて、ツアー参加者の皆さんが強く関心を持ちました。自己肯定感を高める事や積極的に行動する力折組をこうした目標を指標に日本でも推進したいとのことでした。



生態系教育センターでは、所長のハウグ氏などのナビゲートで感性を刺激する野外学習を体験しました。



「♪大きなクリのきのしたで♪」を皆で合唱し、緑に包まれて歌う心地よさを体験しました。

「目を閉じて、自然の音、自然ではない音を感じる体験」「色を主体に植物を集める草花遊び」「森の中の素材を使った想像的な工作」などを行いました。日頃子どもたちと接する参加者の皆さんにとって、自然の中でのプログラムの多様さが実感できるワクワクする時間でした。
ドイツのカタツムリと出会い、その姿にびっくり！！



4 クラインガルテン NW18 Kleingartenverein NW 18

運営団体 クラインガルテン NW18 協会 Kleingartenverein NW 18 e.V.

ご担当者 責任者 イェルク・シュネリング氏 Verantwortlicher, Jörg Schnöring

URL <https://www.kleingarten-nw18.de/>

視察日 2025 年 6 月 3 日 14:00~16:00

クラインガルテンは小さな庭という意味です。ドイツでは、庭のない市民が庭づくりや野菜づくりができるよう、小区画の土地を賃借する取組が盛んです。クラインガルテン NW18 は、70 年ほど前にミュンヘンの北西につくられ、平均 250m²の面積の区画が 122 あります。

クラインガルテンに足を踏み入れてまず目についたのは「コウモリさんいらっしゃい(Fledermaus Willkommen)」と書かれた看板でした。鳥の巣箱はよく目にしますが、コウモリは、クラインガルテンでは虫を食べてくれる貴重な存在です。



バイエルン州では、自然との共生をテーマにした「ナトゥアガルテン(Naturgarten)」の推進されており、地域ごとにコンテストも開催されています。これは、農薬や化学肥料を使わず、在来植物や昆虫に配慮した庭づくりを評価され、自然に近い庭(ナトゥアガルテン)という認証の看板が掲げられます。クラインガルテン NW18 は、その評価を 90%以上の区画で満たしたところです。視察時は、自然に負荷のかからない工夫や、生きものが暮らしやすくなる工夫をいろいろとご紹介いただきました。





クラインガルテンでは、管理区画の中の 1/3 に必ず農作物を植えることとされています。残りの 2/3 は、小屋やあずまや、花などの観賞用植物のエリアとして利用できます。このクラインガルテンには、幼稚園が管理して園児が自主的に作業を行う区画もありました。



クラインガルテンは、緑が多いため、周辺のアスファルトと建物だけの地区より気温が低い傾向にあります。これまでに街区との気温差が 10℃に及んだこともあったそうです。こうしたことは、都市部におけるヒートアイランド現象を実感する場面と言えます。自然の多い場所と、コンクリートやアスファルトに囲まれた地域では、



気温に大きな違いがあります。ミュンヘンには 85 か所のクラインガルテンが存在しており、これらが緑地としての機能を果たすことで、都市のヒートアイランド現象の緩和に貢献していると言えるかもしれません。

5 自然の子 聖ゲオルグ保育所・幼稚園 Kinderhaus Naturkinder Sankt Georg

運営団体 カソリック教会財団聖マーティン Katholische Kirchenstiftung St. Martin

ご担当者 園長 ペトラ・ハイシュ氏、ニコール・オイクル氏 Petra Heiß / Nicole Oeckl

URL <http://www.naturkinder-poering.de/>

視察日 2025 年 6 月 4 日 8:30~10:45

この園はミュンヘンの中心から東に約 20km、周囲に農地が残るのどかな地域にあります。この園には 1 歳から 6 歳の未就学の子どもが通うほか、併設する託児所にも毎日多くの子どもが通ってきます。園児の数は全部で 124 人です。自然とのふれあいを目的とした園庭ビオトープづくりの取り組みが認められ、この園はユネスコの持続可能な開発のための教育(ESD)の『緑ゆたかな遊び場賞 2010/2011』を受賞しています。



また、連邦政府の全国規模プロジェクト『保育所幼稚園の子どものための庭 一緒に多様性を発見しよう』にも参加し、『エコキッズ』の認定も受けています。

視察当日は、園長先生が園舎を囲む広い園庭をご案内してくださいました。「こちらの園には前の部分(園ではそう呼んでいます)クライミングの部分、後ろの部分があります。そして、外周にも庭があります。園庭には大きな木がたくさんあって、それがとても素敵なのです。たっぷり日陰があって、雨が降っていても外に出られるのですよ。」園庭は、どんな天気でも、子どもたちの遊びが守られている場所になっています。



幼稚園名でもある「聖ゲオルグ(聖ゲオルギオス/キリスト教における著名な聖人の一人)」はドラゴンと戦った守護聖人です。このことにちなんで建物の中にもたくさんのドラゴンのシンボルがありました。





学童の学習小屋には石窯があり、ピザ、パン、ジャガイモなどのグリルパーティーに利用できます。陶器の製作など自然をモチーフとした作品がたくさん飾られていました。



年に2回、保護者の方々と「ガーデンデー」を開催し、園庭の手入れをするなど、いろいろなプロジェクトに取り組んでいるそうです。

保護者と作成した「トカゲの塔」⇒



園庭のそこかしこに、生きものが訪れる工夫がされていました。子どもたちにとって「自然とふれあいは何よりも大切」と考えた前園長が始めたもので、園庭のコンセプトは園長が変わった今もしっかりと受け継がれています。



虫宿や粗朶積みはどの場所でも工夫されていました。



6 森の幼稚園ヴァルディンゼル Waldkindergarten Waldinsel

運営団体 森の幼稚園ヴァルディンゼルの保護者

ご担当者 園長 レッジーナ・フェグラー氏 Regina Fögler

URL <http://www.waldundwir.de/>

視察日 2025 年 6 月 4 日 11:15~13:15

森の幼稚園ヴァルディンゼルは、ミュンヘンの東約 25km のモーザッハの森の中にあります。ここには 3 歳から 6 歳までの 22 名の子どもたちが通っています。この園では、「バイエルン州教育保育計画」を参考に森の中での自由な遊びを実践しています。また、「ホオアカトキを例にした動物保護」プロジェクトを実施し、バイエルン州鳥類自然保護協会(LBV)のエコキッズの認定を受けるなど、自然保護団体との連携にも力を入れています。



田園風景から森に一步足を踏み入ると、小道の先に子どもたちの元気な声が！そして「こんにちは」と日本語が！子どもたちは、私たちグループの人数をドイツ語で「eins(アインス)zwei(ツヴァイ)drei(ドライ)…」と数えて招き入れてくれました。森の中での実体験には、数、言語、音、手仕事そして社会性、様々な学びが見られました。

こうした環境で、子どもたちは、エネルギーに活動し、友達同士で密接にコミュニケーション

をとりながら過ごしています。遊具は全て自然のものを活かして、子どもたちだけで作ったものもあります。保育者と保護者の協力で作られた大型のものもあります。見学日は天気も良く乾いた土でしたが、天気によって土や木の状態も変わります。木の遊具に関しては、腐食してしまう危険性もあるので、常に自分たちで触って確認を行っています。



視察当日は4人保育者が子どもたちと過ごしていました。1人は資格保有者、もう1人がアシスタント、2人は短期の研修生。研修生は毎年訪れるそうです。

園舎となる施設がないことで気になる安全や衛生面について、参加者から複数の質問がありました。この森は緊急の際には、救急車も要請できる立地であるとのことでした。トイレは、森の一角に穴を掘っておき、自然に還る形をとっています。手洗いの水は、保護者が毎日補充してくれるそうです。もちろん消毒も適宜行っています。ドイツの森の幼稚園には、園舎がなく、トイレがないところが多くあり、同様の仕方をしているそうです。

野外であっても、道具や教材の整頓もきちんとされています。荷物保管場所もドイツウヒの枝がハンガーとして活用されていました。お鍋を並べて楽器にしたり、小枝を木琴のように並べたり、様々な道具を使って、遊び道具を創り出す子どもたちの様子がとても印象的でした。



森の中から、私たちを見送る子どもたち、姿が見えなくなるまで手を振ってくれる姿に、参加者の皆さんも笑顔で手を振ります。子どもたちとの交流が楽しめた心温まる時間でした。

7 聖クイリヌス保育所・幼稚園 KiTa St. Quirinus

運営団体 カソリック幼稚園保育所協会テーゲルンゼー教区

Katholischer Kita Verbund Tegernseer Tal

ご担当者 園長 バーバラ・シェッケンバッハ氏 Barbara Scheckenbach

URL <https://www.kitaverbund-tegernsee.de/index.php?id=23>

視察日 2025 年 6 月 5 日 8:30~11:00



カソリック教会の組織が運営するこの園には、2歳半から6歳まで約 70 名が通っています。園舎の向こうに教会の尖塔と山が見えるこの園の重点コンセプトは、宗教教育と自然教育です。

2008 年、この園では子どもたちの希望を取り入れ、園庭の広い斜面を利用して自然体験のできる場所に改修しました。平坦な敷地を創造性豊かな三次元的な空間に変え、雨水を利用した水辺や立体的な砂場、小高い山とその斜面に沿った長い滑り台、登れる壁、たき火ができる場所、トンネルなどもつくりました。私立の園ではあるものの、地元の自治体が補助金を給付して、この取り組みを応援してくれました。



この園は、地域の方、保護者、地元の自治体の協力に支えられて運営しています。経済的に余裕のある家庭の保護者が積極的に寄付をしてくれたり、アイデアを出してくれたりします。他方、難民などの家庭の子どもも分け隔てなく受け入れ、平等にこの自然ゆたかな空間を共有することを実現しています。



この園は、ドイツ政府の園庭の生物多様性を高めるプロジェクト「保育所幼稚園の園庭一緒に多様性を発見しよう」の参加園です。自然体験のための園庭は、まさにこのプロジェクトの趣旨を体現したかのように、植物は青々と茂り、生きものの多様性と発見にあふれていました。

“築山”は、およそ15年前に作られました。設置以降、管理は保護者と地域住民、職員6人が協力して行っています。園庭に子どもが少なくなる午後、6人の職員のうち2人を子ども対応、4人を維持管理作業に振り分けています。地域には、庭の手入れの得意な方が幾人もいて、機械を持ち込んで手伝ってくれるのでとても助かっているとのこと。



3つのクラスが、それぞれ自分たちで大事に果樹を育て、実のなるのを楽しみにしています。

朝はいつもクラスルームで過ごしますが、雨が降っていなければテラスも一緒に使います。食事をするときにテーブルの上に小鳥が来ることも…そして、食べこぼしは全部鳥たちが食べてくれると日頃の微笑ましい様子を伺いました。



テラスの下には、1000ℓの雨水が溜められる集水タンクがあります。子どもたちはポンプで水を汲み上げて、水にふれて楽しむことができます。



8 ミュンヘン空港 Flughafen München

運営団体 ミュンヘン空港会社 Flughafen München GmbH

ご担当者 自然再生担当ナディア・ブラウン氏 Nadja Braun

ヨハンア・ダヴィド氏 Johanna David

URL <https://www.munich-airport.de/klima-und-umweltschutz-86890>

視察日 2025 年 6 月 5 日 14:00~17:00



1992年に開港したミュンヘン国際空港がある一帯は、の周辺地域は、元々エルディンガー・ムースという湿地帯でした。バイエルン州では、開発等により自然環境へ影響を及ぼす場合、ミティゲーション制度に基づいて代償措置を行う必要がある旨、定められています。ミュンヘン空港建設においても、地域の自然に影響があることから、別途自然を再生するという代償措置が計画段階か

ら具体的に検討され、取組は今も続けられています。

ミュンヘン空港を含む、エルディンガー・ムースの一部は、欧州野鳥保護区(EU-Vogelschutzgebiet)として指定されています。広さは45km²以上のあり、そこには保護上重要な鳥類が生息・繁殖しています。たとえばダイシャクシギ(Großer Brachvogel)が、94 ペアが繁殖しました。この空港の草地は、バイエルン州全体で数少ない重要なダイシャクシギの繁殖地のひとつとなっています。



空港敷地内には、南北に小高い丘があり、そこに計 4 か所ほど展望できる場所が設けられています。そこでは滑走路周辺の野の花が咲く草地を見学することができます。また、空港内外には、空港建設に伴う生態系補償措置計画実施区域が広がっています。この区域では、代償措置の場であるとともに、希少な植物を保全する場にもなっています。

空港は、大きく 3 つの区域に分かれています。第 1 区域は滑走路を含む空港施設。2 番目がそのミュンヘン空港を生垣のように囲んでいる緑地帯。3 番目は予備ゾーン、これは今後、空港の敷地内の緑地に新しい施設を建設する必要が生じた際に、代償措置として、別の地域で同等の自然価値を創造するための予備地として確保してあるものです。



予備ゾーンの緑地での取り組みの一環として、昨年の 8 月に、全長 4km の区間に、トカゲなど爬虫類の生息地を 17 か所作りしました。概算では約 70 個このような生息地を設置しました。爬虫類は変温動物で、太陽(の熱)を必要とします。砂地は卵を産むための場所です。

周囲の石は最大で 80cm の深さまであります。そこで冬眠できます。



こうした場所は、詳細な調査や地図の作成を行い、専門家による評価書(アセスメント)を作成して、生態学的な価値を評価しなければなりません。開発行為として、樹木の伐採の必要があれば、役所に申請を出して許可してもらう必要があります。その代替措置としてこのような環境整備を行っています。



最後に、全員に空港の展望台草地で採れたハチミツをお土産にいただきました。このハチミツは、航空機からの排気などの残留物がハチミツの中にはまったく蓄積されていません。この 3 年間、オーガニック(有機)ハチミツの認証も受けているそうです。

旅日記

羽田空港にて結団式！

空の旅は氷河を目下に、外気温は-46℃…



フランクフルト⇒ミュンヘンが
フライトキャンセルとなり、
鉄道・タクシーに乗る経験も…

旅の醍醐味は、現地の食事と買い物



地元スーパーでは旬の白アスパラが並んでいました。

ドイツといえばソーセージのお味も様々



研修の後は、ミュンヘンを街歩き



移動には地下鉄やスクーターを使った方も



最後の夜は振り返りに参加者の皆さんから一言、
そして無事、空港での解散式…



